

ZEPHYROS

ゼフュロス No.13

The National Museum of Western Art, Tokyo 国立西洋美術館ニュース

ISSN1342-8071



ガイド・レーニ《ルクレティア》1636-38年頃

国立西洋美術館所蔵イタリア・バロック絵画

国立西洋美術館本館のスロープを上ると、そこは15世紀から18世紀までのヨーロッパ絵画の世界への入り口です。展示室を歩いて最初の角を曲がると、右側の狭い区画に3点、17世紀イタリア・バロックの絵画がならんでいます。当時一世を風靡していたボローニャ派の優れた画家ガイド・レーニとグエルチーノ、そしてスペイン領ナポリで活躍したベルナルド・カヴァッリーノの作品です。

ガイド・レーニの《ルクレティア》は、1636年から1638年頃、レーニが61～63歳の作品と考えられます。若い頃には明快な輪郭線と明るい色彩を特徴としたレーニですが、齢を重ねるごとに次第に線は穏やかに暈かされ、柔らかな色彩へと移ろいでゆきます。そうした晩年の様式と若い頃の色彩の名残の双方をこの作品に見ることができます。物語の詳細は割愛しますが、ここに描かれている女性は古代ローマ時代のルクレティアという、自

分の貞節の証のために剣で自害した悲劇の女性です。しかしどうでしょう、この作品は自殺する女性の姿を描き出しているのでしょうか？そうではなく、古代の故事を女性の裸体を描く口実としているのです。しかも、この時期ルクレティアを主題とした作品を多く注文したのが高位聖職者であるというのは愉快です。

さて次の《ゴリアテの首をもつダヴィデ》の作者グエルチーノは、本名をフランチェスコ・バルビエーリといい、あだ名でグエルチーノ（斜視くん）と呼ばれていました。彼の作品はガイド・レーニと比べると色調が暗いのですが、その分深い詩情を湛えているのが特徴です。この《ゴリアテの首をもつダヴィデ》はもともとファルネーゼ家のコレクションにあった作品で、巨人ゴリアテを倒したあと、神に感謝の祈りを捧げるダヴィデの姿を現しています。その上半身裸で天を見上げるポーズは、レーニの《ルクレティア》と実はよく似ています。そこにレーニの影響力の強さを知ることができます。



グエルチーノ
《ゴリアテの首をもつダヴィデ》
1650年

最後のカヴァッリーノはナポリ派の優れた画家です。《ヘラクレスとオンファレ》は、英雄ヘラクレスが、リュディアの女王オンファレのもとで奴隷として糸紬をさせられる場面です。ナポリ特有の荒い目地のカンヴァスに、無骨な農民のような肉体のヘラクレスがオンファレに棍棒とライオンの毛皮をとられ、へたな糸紬を女たちに笑われている姿が表わされています。そしてバロック絵画に特徴的な暗い背景にスポット照明のような光が、哀れなヘラクレスの姿を浮かび上がらせています。また画面右下のカゴとレース編みの布の表現に、彼の卓越した技術を見て取ることができます。

ところでガイド・レーニとグエルチーノの作品には、実は隠された秘密があります。それらはかつて18世紀後半に在リヴォルノ英国領事を務めていたジョン・ウドニーがイタリア貴族から買い取り、所有していたもので、彼の没後、イギリスで競売にかけられて以来、離ればなれになっていました。しかし200年の時を経て、今度は日本の美術館で偶然にも再会することになったのです。人の一生よりも長い命を保つ作品たちには、人知れぬ運命が隠されています。

◆常設展観覧料

- 一般……………420円(210円)
- 高校・大学生……130円(70円)
- 小・中学生……………無料
- ※()内は20名以上の団体割引料金

(研究員 高梨光正)



ベルナルド・カヴァッリーノ
《ヘラクレスとオンファレ》
1640年頃

家族で楽しむ“びじゅつーる”

the national museum of western art, tokyo

当館では一年を通じて様々な教育プログラムを実施していますが、子どもから大人まで幅広い年齢層に開かれているプログラムは夏季に集中しています。当館の所蔵作品を、特定のテーマに沿って紹介するプログラムがそれです。今年からこのプログラムを総称してFun with Collection（ファン・ウィズ・コレクション）と呼ぶことになりました。“美術館の所蔵作品（コレクション）を楽しんで（ファン）もらう”ことを願って付けた名前です。そして、今年のテーマは、芸術家の手（表現方法）と心（思いや考え）の関係を考えながら作品を観賞することでした。「手と心-モネ、ドニ、ロダン」というテーマ・タイトルをご記憶の方もいらっしゃるかと思います。

さらに、今年は「手と心」に関連して“ファミリープログラム”を7月と8月の日曜日に行いました。これはモネ、ドニ、ロダンの作品を、人形など様々な道具（ツール）を使いながら、あるいはクイズに答えながら家族で観賞するものです。これらの道具やクイズは一つの袋にまとめ、“びじゅつーる”と名付けて美術館の入り口で貸し出しました。この新しいプログラムは、低年齢層の子どもと大人と一緒に楽しめるもので、夏季には多くの家族連れが展示室で“びじゅつーる”を使っている姿を見ることができました。「いろいろな見方ができてよかった。」「会話がはずんで、子どもと一緒に楽しく作品を見ることができました。」など、こちらも嬉しくなるような感想を聞くことができました。

（主任研究官 寺島洋子）



モネのツールを使って楽しむ親子



彫刻と同じ形が作れるかな？

レンブラントの親友

the national museum of western art, tokyo

ここに表わされた薬剤師アブラハム・フランケンは、有名な美術コレクターとしてだけではなく、レンブラントの親友の一人として知られています。

開け放たれた窓から射す光は、フランケンの顔を照らすと同時に、うす暗い部屋の壁に掛けられた作品も照らし出しています。それらは、すべてレンブラントの作品かもしれません。テーブルの上には、大型の書物が開かれ、中国の焼物とおぼしき人形が、その隣には壺や蓋物、人間の頭蓋骨が置かれています。薬剤師という職業柄、当然人間の身体には興味があったに違いありませんが、もちろんここでの頭蓋骨にはヴァニタス（人生のはかなさ）が暗示されているのでしょうか。しかしそれは、フランケンの性質や美術コレクションに否定的な意味をもたらすのではなく、単に当時流行のモチーフだったということに過ぎません。

フランケンが、レンブラントと出会ったことによって、自分に潜んでいた芸術に対する興味や作品収集の情熱に気付くこととなりました。そして、レンブラントが財政的な困難に陥った時、彼は親友として惜しみない援助を何度も申し出しました。おそらくこの作品は注文制作ではなく、そうした友情関係から成立したもので、フランケンに対するレンブラントの友情の証と言えるでしょう。

本作品は2002年度の購入作品です。裏面に捺された多数のコレクターズマークは200年前までの来歴を明らかにし、この作品が由緒正しい一品であることを教えてくれています。

(主任研究官 佐藤直樹)



レンブラント
《薬剤師—アブラハム・フランケンの肖像》
1657年頃
エッチング、ドライポイント、ビュラン
※この作品は展示されていません。

◆「神話、聖書、物語：
レンブラントとレンブラント派
(仮称)」のお知らせ

2003年9月13日(土)～12月14日(日)
国立西洋美術館

★2003年のカレンダーができました

国立西洋美術館のミュージアム・ショップは常設展入口近くにあります。西美所蔵の優品をモチーフにした、絵はがき、クリアファイル、マウスパッド、一筆せんなど様々なグッズを取り扱っております。なかでもモネ《睡蓮》・ゴッホ《ばら》のスカーフ（6,000円）、《考える人》ストラップ（600円）、《考える人》ネクタイ（5,000円）などは国立西洋美術館ならではのものでしょう。

書籍コーナーでは、西洋美術を中心とした書籍・雑誌を販売しています。西洋美術入門書から研究書まで約3,000種を取り扱っており、美術ファンから研究者の方まで幅広い層の方々にご利用いただいております。

さて、常設展の中でも選りすぐりの名作がカレンダーになりました。カルロ・ドルチ、ルノワール、モネ、ゴッホなどの魅力的な作品で構成されています。日常生活の中で、気軽に美術に触れていただければ……という考えのもとで完成した「2003年 国立西洋美術館カレンダー」、ぜひご利用ください。

今後もお客様の声に耳を傾けながら、皆様に喜んでいただけるようなミュージアム・ショップにしていきたいと思っております。

※表示価格はすべて税別です。



ミュージアム・ショップ
9:30～17:00（金曜日～20:00）
★観覧券なしでご利用いただけます。



★コースター（1枚200円）

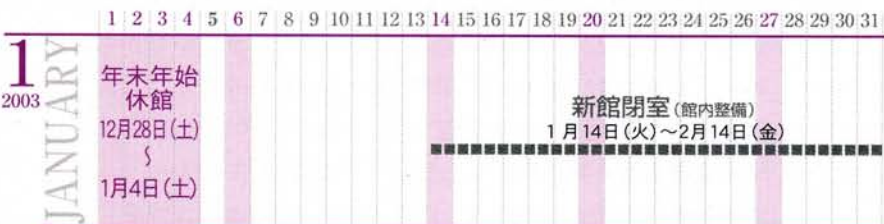
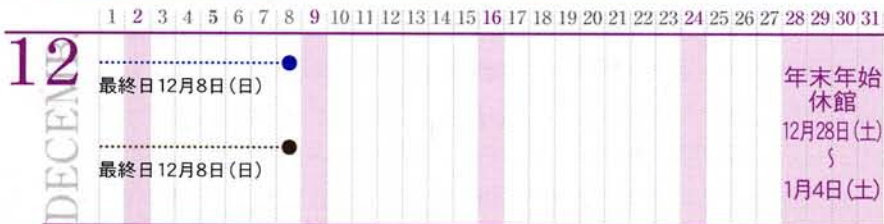


★2003年 国立西洋美術館カレンダー（1,000円）

常設展示 (本館・新館)

ロダンの彫刻と、中世末期から18世紀末頃までのオールド・マスターの絵画を本館で展示しています。新館では、モネ、ルノワールなどのフランス近代絵画を中心に19世紀半ばから20世紀の絵画を展示しています。

休館日



※展覧会名、会期、内容等は変更されることがあります。

国立西洋美術館

- 所在地…〒110-0007 東京都台東区上野公園7-7
- 開館時間…9:30～17:00、金曜日～20:00
(入館は閉館の30分前まで)
- 休館日…月曜日(ただし、月曜日が祝日あるいは振替休日となる場合は翌火曜日) 年末年始(12月28日～翌年1月4日)
- 常設展無料観覧日…毎月第2、第4土曜日と文化の日
- お問い合わせ…ハローダイヤル:03-5777-8600
<http://www.nmwa.go.jp/>

ZEPHYROS

ZEPHYROS 第13号

編集・発行 国立西洋美術館
/平成14年11月20日(年4回発行)

協力 (財) 西洋美術振興財団
印刷 (株) アイネット